

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	0171100225		
法人名	有限会社 ケアリンクス		
事業所名	グループホーム せせらぎの家		
所在地	千歳市新星2丁目2番3号 電話：0123-23-6151		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年11月4日

【情報提供票より】 (平成20年 10月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年3月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	7,3人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:30,000 円 暖房費(10~3月)5,000 円
敷金	(有) 45,000 円		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) () 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (10月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 79 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊勢内科小児科クリニック 千歳佐藤整形外科医院 宮川歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「せせらぎの家」は、千歳川が近くに流れ、小鳥や、季節により鹿を間近に見ることの出来る、中心街からやや奥まった自然豊かな住宅地に位置している。法人の代表は、協力医療機関の伊勢内科小児科クリニックの主治医と千歳市の介護に対してお互いに共感するところがあり、協力して当グループホームを設立するに至っている。管理者は、職員と共に常に介護の向上を目指して積極的に研修に参加し、利用者中心の「寄り添うケア」を日々心がけて支援を行っている。明るい居間では、利用者がゆったりと過ごし、職員や他の利用者とは笑顔で会話を楽しみ、笑い声があふれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の取り組み事項である、地域密着の視点を加えた事業所独自の理念については、全職員で意見を出し合い、「地域の方々と利用者の架け橋となり社会のつながりを築いて行きます」と地域密着を掲げた理念を作成し既に取り組まれているが、同業者との交流、看取りに関しては取り組みの継続中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、役職者が原案を作成し、各職員に意見を聞く事で作成しているが、職員も自分の考えが自己評価に反映されていると認識している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催している。事業所からの状況報告、行事予定とともに、利用者からの意見も発表されている。事業所が提案した、公園にベンチを設置して欲しいと言う意見は地域で取り上げられ、市役所の方での工事が決定している。介護福祉事業部長が市役所に頻繁に出向き、事業所の現状や意見を提示している。今後は、施設長や介護福祉事業課長も市役所に出向いて、少しずつ繋がりを深めて行く意向である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「せせらぎ便り」を発行し、利用者、家族それぞれに個別にコメントを記入して家族に送付するとともに、利用者用のホーム便りは各居室に掲示している。来訪時など、話しやすい雰囲気の中で個別に聞き取りをして、家族からの何気ない言葉や、利用者の意見も苦情として真摯に受け止め、職員間で話し合いを行い、書類に記録している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入すると共に、青年育成部役員を引き受け、「こどもSOS」の役割や子供達の見守り活動に参加している。町内会の行事に参加して餅つきを担当したり、事業所のおしるこ作りや桜餅作り、恵方巻などの行事に地域の人を招いて交流を深めている。事業所が発行している「かわら版」を各世帯に直接配るなど、地域の人々との交流を常に心がけている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価を踏まえ、全職員で意見を出し合い利用者のための理念を作成した。「地域の方々と利用者の架け橋となり社会のつながりを築いて行きます」と、地域密着の理念も掲げ地域の中での暮らしを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホールや事務所、各居室に掲げ、利用者や家族に分かりやすいように配慮している。全職員は、理念を書いた紙を携帯しており、朝夕の申し送り時に唱和し、利用者中心の介護を常に心がけて仕事に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入すると共に、青年育成部役員や子供達の見守り活動に参加している。町内会の行事に参加して餅つきを担当したり、事業所のおしるこ作りや恵方巻などの行事に地域の人を招いている。事業所が発行している「かわら版」を各世帯に直接配るなど、地域の人々との交流を心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、役職者が原案を作成し、各職員に意見を聞く事で作成しているが、職員も自分の考えが自己評価に反映されていると認識している。前回の外部評価の取り組みについては、理念の作成、地域との交流は既に取り組まれているが、同業者との交流、看取りに関しては取り組みの継続中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、町内会長、地域包括職員の参加のもと2ヶ月毎に開催している。事業所からの状況報告、行事予定とともに、利用者からの意見も発表されている。事業所が提案した、公園にベンチを設置して欲しいと言う意見は地域で取り上げられ、市役所の方での工事が決定している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護福祉事業部長が市役所に頻繁に出向き、事業所の現状や意見を提示している。事業所が発行している「かわら版」も、市役所、社会福祉協議会、包括支援センターに置いて貰い、事業所の周知活動にも繋げている。今後は、施設長や介護福祉事業課長も市役所に出向いて、少しずつ繋がりを深めて行く意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「せせらぎ便り」を発行し、利用者、家族それぞれに個別にコメントを記入し、利用者用のホーム便りは各居室に掲示している。家族が来訪した時は、利用者の健康状態や金銭管理を報告し、領収書と台帳のコピーを渡している。	○	担当職員の異動や退職については、その家族に報告しているが、他の職員に関しては報告していない状況なので、今後は、職員の異動、退職について全家族に報告して、今後もより一層家族との関係を密にしていくことを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置すると共に、外部の相談窓口も知らせている。来訪時など、話しやすい雰囲気の中で個別に聞き取りをしている。家族からの何気ない言葉や、利用者の意見も苦情として真摯に受け止め、職員間で話し合いを行い、苦情処理として書類に記録している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員制にしているが、全職員で利用者寄り添って日々の支援を行い、異動によるダメージを最小限に抑えるように努力している。職員の交代については、利用者の状況に応じて報告するなど、柔軟に対応を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が研修テキストを作成し、新人研修、在職者研修、資格研修など、職員のレベルに合わせて研修を行っている。外部研修は、職員の希望や役職者の判断で、それぞれのレベルに合わせた研修機会を与え、全職員のレベルアップを目指した教育体制になっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、研修会などに於ける役職者間の交流が中心で、他のグループホームとの交流は思うように実現出来ていない。	○	運営推進会議において、包括支援センターもグループホーム間の交流の重要性を認識しているので、今後は、包括支援センターに働きかけて、他のグループホームとの交流を実現していきたい意向なので、その実現を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、利用者や家族に見学に来て貰い、職員や他の利用者と一緒にお茶を飲みながら雰囲気を味わって貰い、安心して入居出来るように配慮している。入居初日などは、家族に宿泊して貰って不安を最小限に抑えたり、担当職員が常に寄り添って話を聞くなど、利用者中心の対応を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員一人ひとりが寄り添うケアを意識し、利用者中心のゆとりある生活を支援している。利用者の得意な調理や野菜の栽培、昔の遊び、歌などを教えて貰いながら、職員も一緒に活動し、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはセンター方式のシートを活用して本人や家族から生活歴や意向を把握している。把握が難しい場合は表情や動作、外出先での様子などを観察し、夜勤明けなどにはゆっくりと話をすなかで、日々変化する思いに柔軟に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規作成の場合は、家族にセンター方式のシートの可能な部分について記入をお願いしている。本人や家族の希望、医療情報などを総合して「私らしい過ごし方」「私らしくある為の一番大事な事」「私らしい生活が送れたかの見直し」「私らしくある為の計画表」という書式を用いて本人の視点で作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員が日常のケアを通して気づいたことのメモを「気づきボード」に貼り付けておくことで、一人ひとりの変化を把握できるよう努めている。定期的な見直しは担当者や介護支援専門員などが参加し職員会議で3ヶ月毎に行っている。体調が急変し介護内容が変わった場合に話し合いは行われているが、計画を新たに作成するには至っていない経緯がある。	○	ユニット会議や「気づきボード」を活用して状況の変化に応じた適切な介護を行ってきているので、今後はその内容を介護計画へ記録することができるよう、期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、看護師が勤務しているので、体調の変化などに対して柔軟な支援が行われている。かかりつけ医への受診は家族対応をお願いしているが、難しい場合は事業所で通院と院内での介助を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によっては泌尿器科、眼科、歯科などはかかりつけ医の受診を継続している。協力医療機関での検査などは家族に対応を依頼することもあるが職員との連絡を細やかに行うことで、適切な医療を受けることができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書に「医療上の必要への対応」に関して明記しているが、急変した場合にはその都度話し合っている。看取りについては、家族の意向の把握や職員の教育などの課題があり、役職者会議でマニュアル作成を含めて検討を考えているところである。	○	入居の早い段階で本人、家族、医療関係者と事業所とで終末期に向けた方針を共有し繰り返し話し合うことができるよう、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「食べてください」などの命令口調とならないよう「食べますか？」と言葉かけを行っている。また、居室に入る時には、必ずノックをすることを徹底している。記録等は事務室に保管し、面会記録はカード式とし家族情報への配慮を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、利用者の体調や気持ち、ペースに寄り添うようにしている。畑仕事の後に入浴する利用者には、個別に夕食の時間を遅くしている。牛乳パックでぶんぶん独楽を作り、保育園児にプレゼントし喜ばれている利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は週に3回利用者と一緒に出かけており、旬のものや食べたいものを購入している。献立はその日の食材を見て決めているが、誕生日には本人の希望の献立にしている。賄いをしてきた経験のある利用者が調理をしたり、個々の力に応じて後片付けなどを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日いつでも好きな時間に入浴できるようにしており、多種類の入浴剤を用意し本人が選ぶことができるようにしている。異性の職員が介助をする際には、了解を得ている。現在、入浴を拒否する利用者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	週に1回を目標に午後のお茶の時間を利用して「入居者さん会議」を行っている。楽しみごとや気晴らしをしたいことなどを自由な雰囲気です話し合っている。畑での野菜作りや花壇の手入れ、自然散策、ウッドデッキでの食事などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関の両側に花壇や畑があり、正面に公園、横手に山があり、玄関から歩道までスロープが延びているので日常的に戸外に出ている。冬季は近隣にある植物園に行き、南国の花々を楽しんだり、大型ショッピングセンターへ外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員が理解しており、日中は施錠していない。玄関の横にオープン形式の事務所があり、また出入り口にはチャイムを設置し、安全に外出ができるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、利用者や隣家の住民が参加し避難訓練を行っている。事業所内の見取り図や実施後の反省点、改善計画などを記録しているが、夜間を想定した災害訓練の実施や地域住民の協力について検討しているところである。	○	地域の人々に個別訪問で届けている「かわら版」を活用するなどの方法で、災害対策の協力が得られるよう、期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量が少ない時は、その原因を考え時間を調整したり、ジュース、麦茶、スポーツドリンクなどの複数の飲み物をテーブルに用意しセルフサービス方式で飲むことができるようにしている。協力医療機関で定期的に献立の栄養管理を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓から四季おりおりの山の景色を楽しむことができる。2つの食卓テーブルとゆったりとしたソファを配置し、居間からウッドデッキに出ることができる。廊下の壁に「本日の職員」の写真と氏名を掲示しており、玄関を開けると支笏湖の方向に沈む夕日が眺められ、自然光に溢れた共有空間作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の壁に運営理念、介護理念、自己評価、介護計画、ホーム便り、職員からの感謝の気持ちを伝える感謝状などが掲示しており、本人が主体の生活の場となるように支援している。手作業をするための材料やテレビなどがあり、居室での生活を楽しんでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。